DM5 Firmware 主なアップデート内容

V2.00

V2.00 の新機能

- Bluetooth 接続による音声入力機能を追加しました。
- 12 チャンネルの Dugan Automixer を追加しました。Dugan Automixer ライセンス（DEK-DUGAN）をインストールすることで、DM5 では Dugan チャンネル数を 60 チャンネルまで、DM5 Compact では 48 チャンネルまで拡張することができます。
- 以下の 2 つのモードを追加しました。
    1. User Defined Knobs に Dynamic モードを追加しました。このモードが有効な時、User Defined Knobs を使用して、選択中のチャンネルのハイライトされているモジュールを制御できるようになります。このモードは User Defined Knobs バンク選択ボタン、または User Defined Keys を使用して有効にできます。
    2. Selected Channel View モードを追加しました。このモードが有効な時、Selected Channel でよく使用されるパラメーターが画面上のパラメーター制御エリアから直接制御できるようになります。Module モードを選択することで、DM V1.xx ファームウェアで使用されていた従来の動作を利用することも可能です。これらのモードは User Preferences、または User Defined Keys を使用して設定できます。
- Comp Assist 機能を追加しました。この機能が有効となっているチャンネルでは、入力ソースのレベルに基づいて、コンプレッサーの推奨パラメーター設定が適用されます。
- 以下のヤマハ機器が DANTE SUPPORTED DEVICE リストに追加されました。
    - DME5、DME3
- 以下のサードパーティー機器が DANTE SUPPORTED DEVICE リストに追加されました。

    - NEXO DME10、Stagetec NEXUS (XDIP、NEXUS Compact)、DirectOut DANTE.IO、DANTE.IO DNA（Dual Network Audio modules）、Audio Technica ATW-DR3240DAN
- 選択した入力チャンネルのパッチビューに「TAKE FROM CHANNEL」オプションを追加しました。「CHANNEL」を有効にしている場合、インプットパッチ変更時に、そのチャンネルの現在の HA 設定が新しいポートに適用されます。この設定はシーケンシャルパッチを作成する場合にも適用されます。
- CH JOB メニューの CH COPY でアウトプットチャンネルをコピーするとき、Channel Parameter と Incoming Sends をコピー対象として選択できるようになりました。
- CH JOB メニューに Channel Move を追加しました。
- パッチメニューのパッチボタンに、Dante の Port ID、Port Label を表示するようになりました。
- 以下の OSC パラメーターを追加しました。
    - Input Channel の Digital Gain
        - OSC アドレス
        - MIXER: Current/InCh/DigitalGain
    - Input Channel の Phase
        - OSC アドレス
        - MIXER: Current/InCh/Phase
- LLDP による Dante 最適設定をサポートしました。「Dante 最適設定機能」に対応したヤマハ製ネットワーク機器に接続すると、LLDP により機器同士が連携し、Dante に最適な設定が自動的に適用されます。

V2.00 の改善点

- Set by SEL 時の画面表示を改善しました。ガラスキー上にパラメーターが表示されるようになりました。
- 画面の表示切替速度を改善しました。

- FX RACK にて使用できるマルチエフェクトプロセッサー群のグラフィック表示を刷新しました。
- より安定した性能を発揮できるよう、Fader Assist 機能の再設計および改善を行いました。
- Naming Assist 機能使用時に楽器アイコンの推定精度を改善しました。
- Screen Protection 機能を追加しました。本設定が有効のとき、何も操作せずに 4 時間が経過すると画面とパネルの輝度が下がり、さらに 4 時間経過後（計 8 時間後）黒画面表示となります。いずれかの操作をすると通常の明るさに戻ります。本機能は初期設定で有効となります。必要に応じ MAINTAINANCE 画面から設定を変更ください。
- Dante の副回線（SECONDARY）で通信している時にも、Dante 設定の制御ができるようになりました。
- Dante Domain Manager（DDM）環境において、DM5 コンソールが DDM サーバーと異なる Subnet に属している場合の IO 機器デバイスのマウント制御およびリモート HA コントロールの安定性を改善しました。

V2.00 で修正された不具合

- DM StageMix との同期・再同期処理中にシーンリコールが行われると、その後 DM5 コンソールが一部の操作に反応しなくなる場合があった不具合を修正しました。
- マウントした Dante 機器とのパッチがずれることがあった不具合を修正しました。
- ごくまれに Power loss to PSU detected のエラーが表示され、Bay 画面が応答しなくなることがあった不具合を修正しました。
- User Defined Keys による FADER BANK 選択で SEL CH が更新されないことがあった不具合を修正しました。
- DANTE IO DEVICE 画面で、異なる ULXD の RF 情報が表示されることがあった不具合を修正しました。

既知の不具合

- SETUP メニュー内の TIME 画面において、地域・日付・時刻を変更した後に、外部接続した Dante 機器の発見、マウント、およびパラメーター同期、Dante パッチの変更が正しく行えないことがあります。本症状発生時は DM5 本体の電源再起動を行ってください。これは将来リリースのファームウェアで修正される予定です。
- Dante 端子とネットワーク端子を同一のネットワークスイッチに接続すると、FOR MIXER CONTROL で設定されている IP アドレスと FOR DEVICE CONTROL で設定されている IP アドレスのサブネットが異なっていても、通信が不安定になる場合があります。接続するネットワークスイッチを分けるか VLAN を設定してネットワークを分割してください。
- PY64-MD の MADI IN 1/2 端子にオーディオ信号の入力がない状態で Redundant ボタンと Split ボタンを両方ともオンにすると“PY Card Error, Internal Connection”という警告が DM5 のスクリーンに表示されることがあります。この問題は動作に影響しません。

使用上のご注意

- MAINTENANCE 画面で Initialize All を実行すると、Dante がデイジーチェインモードになります。リダンダント接続環境では Dante ネットワークケーブルを取り外した後に Dante の設定を再度実施してください。

バージョンアップ時のご注意

- 一部の USB メモリーを使用すると、ファームウェアのアップデートが開始されない場合があるという報告を受けております。その場合は他の USB メモリーに変更して再度アップデートをお試しいただくようお願いします。
- DM5 や DM5 Compact に“Startup Failed”のエラーメッセージが表示されている状態ではファームウェアアップデートを正常に行うことができません。SECONDARY ポートの接続を外した状態で再起動し、“Startup Failed”のエラー状態を解消後、アップデートを行なってください。アップデート完了後、接続を元にお戻しください。

- Initialize All Memory を実施後に DM5 / DM5 Compact の電源を再起動すると、メンテナンス画面が表示されることがあります。その場合は DM5 / DM5 Compact の電源を再起動してください。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい（遅い）方の設定が有効になります。